



広報

人いきいき
自然とふれあう花の里

かんど

第250号 令和8(2026)9.10
神門コミュニティセンター

神門地区の人口

(令和8年7月末現在)

前年同月増減

世帯数	3,416	+128
人口	8,574	+111
男	4,149	+45
女	4,425	+66

楽しかったよ! こどもクラブ!

ラジオ体操

みんなで、出雲弁ラジオ体操!

しゅうちゅうしてべんきょうしたよ

スタディタイム

クッキング

しおあじと
キャラメルあじの
ポップコーンが
できた!

モルック

はじめてのモルック
ねらったけど、あてるのは
むずかしいな~

たいしょうことって、
きれいなおとだね

大正琴体験

たのしいおはなしたくさんきいたよ

お話会

裁縫

じぶんでそうきんが
ぬえた!

どんなかみひこーきが
できるかな?

紙ひこーき作り

神門コミュニティセンター青少年部の自主企画事業「こどもクラブ」を今年も開催しました。神戸川小学校1・2年生を対象に募集し、7月21日~31日の6日間で9回実施、延べ76名が参加しました。

内容を「スタディタイム(自主学習)」と「こどもタイム(交流活動)」にわけ、地域のボランティアの皆さまに学習や交流活動の見守りをしていただきました。

スタディタイムでは、夏休みの宿題やドリルなどを持ってきて、早く終わらせようと集中して取り組みました。

こどもタイムでは、地域で活動している団体の皆さまなどにも協力いただき、モルック、クッキング、手芸体験、ストーンアート、3B体操、大正琴、手話教室、工作など、日替わりの活動を行いました。子どもたちが初めて体験することもたくさんあり、「もっとやりたい!」と楽しんで活動できました。

違う学年、違うクラスの友だちと一緒に活動することで、子どもたちにとって新たな仲間作りにもつながったのではないかと思います。

こどもクラブの期間は子どもたちの元気な声がコミュニティセンターに響き渡りました。

(神門コミセン 青少年部)

島根県消防操法大会に出場して

出雲市消防団 神門分団 分団長 浅津敏彦

神門分団が県の消防操法大会に出場するのは優勝した令和元年以来となります。その当時のことを知る団員は現在半分にも満たない状況なので、これまでとはガラリと変わる取り組みをしました。

選手は全員選手経験のない団員から選び、その選手を前回優勝メンバーが指導。練習のサポートには神門の団員だけでなく、西部地域の長浜分団、高松分団、神西分団の団員さんにも協力していただきました。

サポート体制は整っていても、選手の体調不良や器具修理の関係でその部分の練習ができなかった期間があるなど、練習は思い通りには進まないことが多く、試練を与えられているなど感じる日々が続きました。

大会の結果は3位でしたが、選手たちは前回優勝時と引けを取らない、全団員の思いが乗り移ったベストパフォーマンスを披露してくれて、全団員の苦勞が報われたと感じました。そしてこのことが、「地域を災害から守るんだ」という気持ちをさらに強くしたと思います。

今回地域の皆さまには多くの応援をいただき、それを励みに最後までやり抜くことができました。本当にありがとうございました。



神戸川小学校2年生

神門コミュニティセンターの見学

センター長 梶谷幸生

6月12日(金)、神戸川小学校2年の児童の皆さん48名が「まちたんけん」の授業で神門コミュニティセンターの見学に来てくれました。

大集会室でホームページを使って、施設の概要やサークル活動、企画イベント、地域の概要について説明した後、実習室や図書室、和室、会議室などを案内しました。そして、毎日の来館者数やコミュニティセンターの意味、人気のイベント、働くことになったきっかけなど、たくさん質問を受けました。

後日、児童の皆さんから、学んだことや見つけたこと、感じたことをまとめたイラスト付きのお礼状をいただきましたので、館内に掲示し、ご来館の方々にも見ていただきました。



館内に掲示したお礼状

第52回神門地区 班対抗ソフトボール大会

神門地区スポーツ協会

副会長 新宮源悦

6月14日(日)、真幸ヶ丘公園多目的広場において、神門地区の各班から選手が参加して、ソフトボール大会が開催されました。

曇り空の涼しい気候の中、参加者の熱気あふれるプレーにより大会が無事に進行し、1・2・7班の連合チームが優勝し、準優勝には5・6班の連合チームが輝きました。

連合チームによる対抗戦という形になりましたが、ホームランが飛び出すなど白熱した戦いになりました。

来年以降の大会には、ぜひすべての班の皆さんご参加をお待ち申し上げます。

試合結果は次のとおりです。

優勝 1・2・7班連合チーム
準優勝 5・6班連合チーム
第3位 8班



神門花火を見る会

神門花火を見る会実行委員会

代表 藤江昭雄・寺田直広

8月14日(金)の夜、神戸川護岸から打ち上げる、神門花火を見る会を開催しました。

昨年をもって真幸ヶ丘公園まつりは終了しましたが、長年続いてきた神門の花火が終わってしまうのは忍びなく、有志数名で企画しました。

打ち上げ場所は安全性と環境への影響を考慮し選定しましたが、近くに観覧場所や駐車場・駐輪場を確保できないため、遠方から花火をご覧いただくことになりました。

約20分間でしたが、夏の風物詩である花火の多彩な色合いと形状、音の大きさと質感を楽しんでいただけではないでしょうか。

お盆で帰省された方も含めて共通の体験を通じて、神門の地域コミュニティのつながりを深める一助になれば幸いです。

最後になりましたが、近隣の住民の皆さまや消防団神門分団、関係機関の皆さまのご理解・ご協力にお礼申し上げます。



ひまわりイベント

神門地区農地と水と環境を守る会

会長 藤原光雄

6月8日(月)午前9時30分より、下古志町上組西地区の生産調整田において、小雨模様

の天候でしたが、神門幼稚園の園児、保護者、先生と当会役員の68名で『ひまわりの種まき』を元氣よく行いました。

この活動は、農林水産省の多面的機能支払交付金事業の共同活動・生産調整田活用による「ひまわりイベント」として実施しています。

8月初めには、きれいな大輪のひまわりの花が満開になりました。神門地区の皆さんにもひまわりの花見をしていただけたことと思います。



種まき



満開



草刈り・間引き

神門地区内 ゴミゼロ一斉清掃

出雲市環境保全連合会神門支部

支部長 落合一男

毎年6月は、環境省が定める環境月間です。神門支部も出雲市の要請に基づき、ゴミ拾いを実施しました。

6月14日(日)、ブロック環境保全委員、町内自治委員、自治協会役員など約60名の皆さまにご参加いただき、地区内の各方面に分かれて活動していただきました。

近年、神門地区では、他の団体もゴミ拾い活動をされるなど、環境問題に対する意識の高まりもあって、当日は例年に比べて、ゴミの量は少なかったです。



神門地区への寄付

神門地区の皆さまから丁寧なご寄付を賜り、厚くお礼申し上げます。

《香典返し》

ご遺族の皆さまからご寄付いただきました。(カッコ内は故人)

江戸 貞男様(繁子)

下古志町 上組西

藤田 英幸様(明)

知井宮町 町一

吉田美智子様(竹内シズエ)

下古志町

荒木 雅子様(藤原スミ子)

芦渡町 油井分一

藤江 佑紀様(榮子)

知井宮町 真幸ヶ岡

原 聡様(ミチ子)

神門町 東谷

原田 一博様(知)

知井宮町 北組

飯塚 大輔様(孝司)

知井宮町 北組

山本 徹様(伊和子)

知井宮町 嘉儀

武田 保正様(義則)

芦渡町 本郷

今岡 潔志様(龍介)

知井宮町 北組

米原 伸夫様(美枝)

知井宮町 町一

令和8年5月22日

令和8年7月17日

楽習会その1

文化 部

6月6日(土)・14日(日) / 参加人数: 46名



癒しのシンギングボウル ヒーリング体験

3年連続でシンギングボウルのヒーリング体験を行いました。講師の大堀実香さんが奏でるシンギングボウルの音色は体にやさしく響き渡り、1時間があっという間に過ぎました。また、昨年旅されたインドのお話を聞き、インド文化の魅力と多様性について知ることができました。

森林浴ウォーキング

健康スポーツ部

7月4日(土) / 参加人数: 25名



初めに飯南町の大しめなわ創作館を訪れ、8年ぶり8回目の架け替えとなる出雲大社神楽殿の大しめ縄の制作工程を見学しました。「コモがけされた縄」としめ縄本体に取り付ける円錐形の「しめのこ」のあまりの大きさに驚きました。

その後、三瓶でウォーキングを予定していましたが、悪天候のため佐田町の伊藤牧場カウベルに立ち寄り帰途につきました。



コミセンの自主企画事業

わくわく探訪塾

地域学習部

6月1日(月) / 参加人数: 19名



フルーツマト収穫体験

“出雲の加田屋”さんのハウス農園(知井宮町)でフルーツマトの収穫体験をしました。完熟の見分け方やハサミの使い方について説明を受けた後、甘さを確認するため多少試食しながら、濃縮された旨味たっぷりのトマトを丁寧収穫しました。そして、1個ずつ選別と糖度測定を行いました。

ゴキブリ団子を作ろう!

6月3日(水) / 参加人数: 19名

生活 部



毎年心待ちにしている人も多いゴキブリ団子作りを行いました。初参加者は経験者から助言を受けながら、皆で協力して、タマネギをミキサーで牛乳を足してすりつぶし、ホウ酸・小麦粉・砂糖と混ぜ合わせ、練って生地を作りました。その後、生地を各家庭に持ち帰り丸めて乾燥させたら団子の完成です。

第1回ハッピーカフェ

ハッピークラブ

7月28日(火) / 参加人数: 14名

“恵季”さんとおいしいスイーツ作り

“恵季”さんのスイーツ作りは今回で3回目となりました。地域に愛されるお店の人からバスクチーズケーキの作り方を直に教わることができるとあって、参加者から熱心な質問が相次ぎました。焼き上がるまでの時間は、甘い香りが漂う中で、楽しくおしゃべりをして和気あいあいとした雰囲気でした。

青少年ネットワーク

ミニ集会

神門地区青少年育成協議会

会長 山田 裕之

日頃より、神門地区青少年育成協議会の活動にご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

6月30日(火)、令和8年度青少年ネットワークミニ集会を開催し、元養護教諭の正木千恵先生を講師にお迎えして、「保健室からの手紙〜養護教諭という生き方〜」と題したご講演をいただきました。

当日は、日頃から子どもたちを温かく見守ってくださる神門地区の団体の皆さま

まや、学校の先生など、29名のご参加をいただきました。

講演では、正木先生が養護教諭として長年勤務される中で、保健室で実際に子どもたちと向き合ってきた体験を、温かく語ってくださいました。思春期ならではの悩みや葛藤を抱えた子どもたちとの関わりから、子どもの心に寄り添い、小さな変化に気付き、受け止めることの大切さを改めて学ぶことができました。参加者一人ひとりととって、今後青少年に関わる上で大変参考となる内容であり、参加者だけでなく子育て世代の保護者の皆さまにもぜひお聞きいただきたい内容であったと感じています。

講演後は、これからの元気に子どもたちの見守りができるよう出雲弁ラジオ体操で体を動かした後、講師を囲んで昼食を行いました。それぞれの立場で感じている課題や地域での取り組みについて語り合う有意義な時間となりました。



今後も神門地区青少年育成協議会では、地域・学校・家庭が連携し、子どもたちが安心して健やかに成長できる地域づくりに努めてまいります。引き続き、皆さまのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

● 部員研修 ●

生活部

5月22日(金)生活部員で、松江市役所新庁舎見学に行きました。新庁舎は約5年かけて建設工事が行われ、今年の春に完成しました。5月16日、17日の2日間にわたり、グランドオーブンディングイベントが開催され、全館供用開始したばかりでした。そして、グランドオーブン後初めての見学者ということ、議場など庁舎内を案内していただきました。

新庁舎は中央エレベーターや階段から窓口を一望できるレイアウトで、来庁者が目的の課にスムーズに行けるよう配慮していることや、庁舎中央の吹抜けにより、館内に自然採光を取り込み、照明電力を削減しているなどの説明を受けました。

また、1階では連続テレビ小説「ばけ」ドラマ館がオープンしており、実際に撮影で使用された小道具や衣装が展示されていて、楽しみながら見て回りました。

会話ははずみ、親睦を深めることができ、とても楽しいひと時を過ごしました。



事業委員・専門部

グランドゴルフ交流会

5月25日(月)、神門コミュニティセンター事業委員、専門部員を対象とした「グランドゴルフ交流会」を実施し、14名が参加しました。

緑に囲まれた宍道町にあるグランドゴルフ場「フラワーガーデンはた」の高低差や傾斜のある起伏に富んだユニークなコースを3コース周りしました。

晴天の暑い中ではありましたが、笑い声が絶えず参加者は楽しみながら親睦を深めることができました。



かんど再発見

(No.98)

智伊神社の例大祭と子ども神楽



恵比寿の舞(平成26年4月13日)



八乙女(平成26年4月13日)

令和8年4月。今年も智伊神社で例大祭が営まれた。4月15日斎行が伝統であったが、近年では参拝者の都合を考えて、4月の第2日曜日に変更されている。この祭はご祭神がこの地に鎮座されたことを寿ぐ祭である。この他にも大切な二つの祭がある。五穀豊穡を願う2月の祈年祭と、その年の稔りに感謝する11月の新嘗祭である。以上が同社の三大祭り。例大祭には子ども神楽が奉納され、地域や氏子を巻き込んだの祭である。

この祭には縁ある近隣の神社の神職も参加し、官司以下の6人に太鼓と笛の楽人を加えて執り行われる。祭典は神職による祓から始まる。神饌、各神職、参拝者をお祓いし、最後に髓神門から南方を望み知井の地と氏子のお祓いをする。拜殿では官司を中央に、神職、参拝者が着座する。本殿を開扉し献饌をする。官司が祝詞を奏上し、玉串奉奠、撤饌、閉扉する。最後に直会のお神酒をいただき祭典を終える。官司挨拶の後

散会し、午後には子ども神楽の奉納となる。

本年の神楽の奉納については新聞にも掲載されて宣伝ともなった。同紙によれば、智伊神社の子ども神楽の始まりは約50年前からという。それ以前には子どもではなく神西神楽社中の舞であった。元来神楽は神職や巫女が舞っていたが、明治初年に禁止されて民間の素人神楽が始まった。しかし、大正期には規制が緩み、神職でも民間でも舞うことができるようになった。神西神楽は、神西の4神社にそれぞれ伝わっていたものが昭和26年に統合されたものである。それが、昭和39年出雲市の無形民俗文化財の指定を受け、神西神代神楽保存会が結成された。子ども神楽は人氣があり、智伊神社の子どもの神楽もこの流行の中で誕生したものであった。

智伊神社では神門町・知井宮町を4区分した町内が輪番で子ども神楽を奉納し、神戸川小学校の児童が舞手となる。その演目は「八乙女」「千歳と三番叟」「恵比寿の舞」「四方剣」である。今年は9人が選ばれて舞った。

平成26年には筆者の属する町内区分が当番であった。舞手の確保の心配、練習日数がわずか11日間

という短期間で急ごしらえであった。舞手は都合14人になった。9日目から奏楽も入り練習最終日には本番通りの化粧、衣裳、奏楽での総仕上げをした。衣裳や奏楽は保存会の借りものである。同会の指導よろしきを得て本番の舞では子どもたちも自信を持ち誇らしげな表情に見えた。なお子どもの舞に先立つて、同社中により「塩清め」と「彦張」が舞われた。

かつての祭は祭典はもとより子ども神楽や軒を連ねる出店が宮参りの客を引き寄せ、多くの参拝客で参道を埋める賑わいであった。参拝者が奉納する祝儀玉串料(は・など称した)を披露する大声の口上が面白おかしく大げさに叫ばれて笑いを誘った。

宮の境内一帯に響いた氏子・参拝者の熱気も今はやや落ち着いたものになったが、今後とも智伊神社の例大祭が奉納される子ども神楽共々、より賑やかに充実して連綿と続いてほしいものである。

参考資料等

- 智伊神社官司 諏訪邊泰敬氏取材 / R8・6
- 神西神代神楽保存会会長 三上幹孝氏取材 / R7・8
- 山陰中央新報連載「いまどき島根の歴史」334、366 / R

7・石山祥子／島根県古代文化センター専門研究員

●山陰中央新報紙面

／R8・4・16、R3・5・16

注釈

- ※1 いなめさい、しんじょうさい
- ※2 しんせん…お供え物
- ※3 巫女舞
- ※4 大下泰平、五穀豊穡を寿ぐ露払いの舞と、鈴を持ち足を踏み締めながらの舞
- ※5 恵比寿様が鯛を釣る招福舞
- ※6 弊と鈴、剣で舞い場を祓い清める
- ※7 場を清める
- ※8 面をつけた女神が弓矢で敵を撃退する
- ※9 口上の例…また又(はなが)出ました太平洋のねんば(幼魚)全部云々…

(神門ヒスタム会員 園山高敏)

お知らせコーナー

○神門地区

スポーツレクリエーション祭

開催日 9月27日(日)

場所 神戸川小学校 体育館

○神門地区総合文化祭

開催日 11月7日(土)

11月8日(日)

場所 神門コミュニティセンター